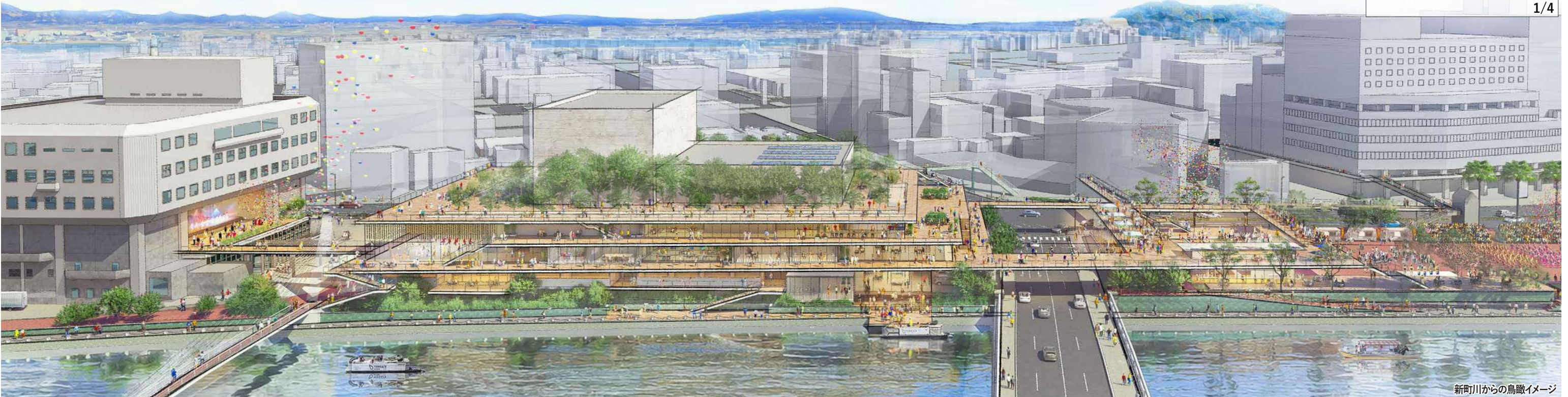


『藍場浜コモンデッキ』『みずべ』から“まち”へ文化と賑わいの“連”なりを育む水都徳島の晴れ舞台

受付番号 01

1/4



新町川からの鳥瞰イメージ

01 にぎわいを連ね一体的な景観を生むコモンデッキ

徳島駅からの都市軸とクロスする文化・賑わい軸の組成

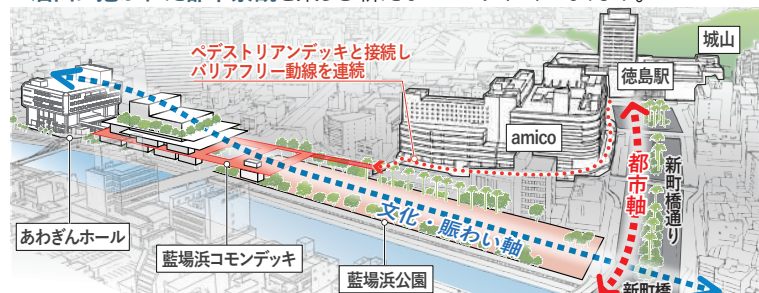
- 徳島駅から眉山へ延びる新町橋通りの“都市軸”と、新ホールにより深化する川沿いの“文化・賑わい軸”が新町橋東詰めで交わる都市空間をつくります。
- 水辺から駅前まで賑わいを連ね、新町川沿いの水辺の回遊動線を励起します。

あわぎんホールと藍場浜公園をリニアにつなぐコモンデッキ

- 新町川に沿った伸びやかな公園の空間特性と調和するコモンデッキにより、あわぎんホールから公園までが一体となった文化・賑わいゾーンを創ります。

公園の緑を継承する文化の森／自由に散策できる立体公園

- 新ホールの屋上を同種の樹種で緑化し、公園の豊かな緑を継承します。
- ホール上部の大ボリュームを柔らかく包み、潤いのある都市景観を形成します。
- 文化の森は県民に開放され、いつでも自由に散策することができ、新町川や眉山に抱かれた都市景観を楽しむ新たなビューポイントとなります。



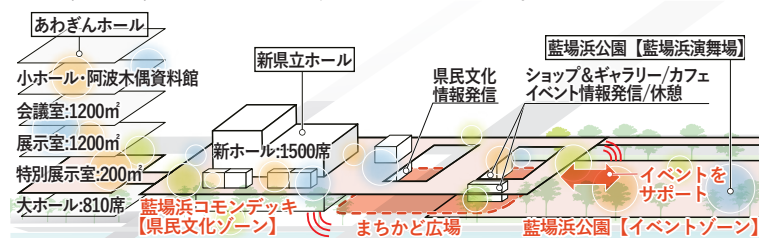
【図1】都市軸と賑わい軸

回遊性の中に「活躍」「体感」「憩い」の場が連なり交流を育む

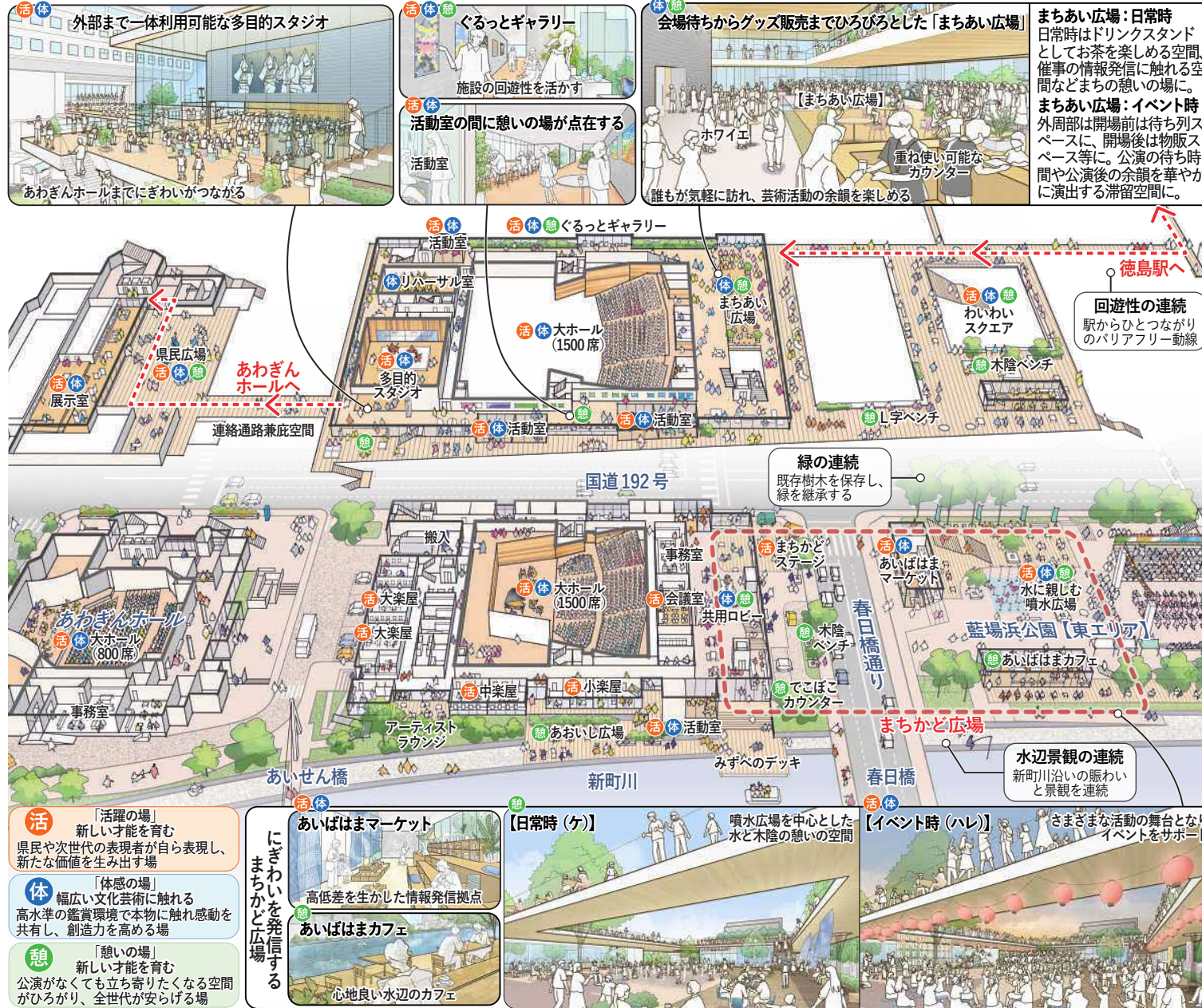
- コモンデッキ上には、“まち”と“水辺”、“あわぎんホール”と“公園東エリア”を自由に行き来できる回遊性の中に「活躍」「体感」「憩い」の場が散りばめられ、文化をベースにした出会いや交流を育みます。

藍場浜公園東西エリアを一体につなぐ「まちかど広場」

- コモンデッキと公園東エリアが立体的に重なる部分を「まちかど広場」とし、ホールや公園で催される様々な県民活動やイベントをサポートする情報発信ギャラリー／カフェ／ショップ等を設け、賑わいを増幅します。



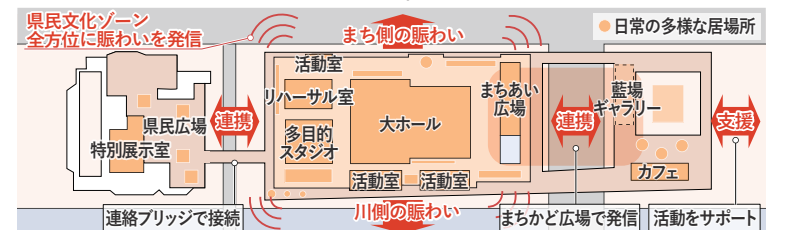
【図2】「活躍」「体感」「憩い」の場が連なり賑わいを増幅するまちかど広場



02 「おもて」「うら」をつくらない機能配置

全方位で周辺環境とのつながりを生み出す平面計画

- 劇場建築の周囲に生まれやすい「おもて」「うら」をつくらない平面計画とします。
- 2階コモンデッキの回遊動線上に県民の活動スペースや日常の居場所を配置し、全方位で周辺環境とのつながりを生み出します。
- スタジオ、リハーサル室をあわぎんホールと向かい合うように配置して連絡ブリッジで接続し、あわぎんホール内の展示室、会議室、ホールなども含め県民文化ゾーンとして一体化を図ります。



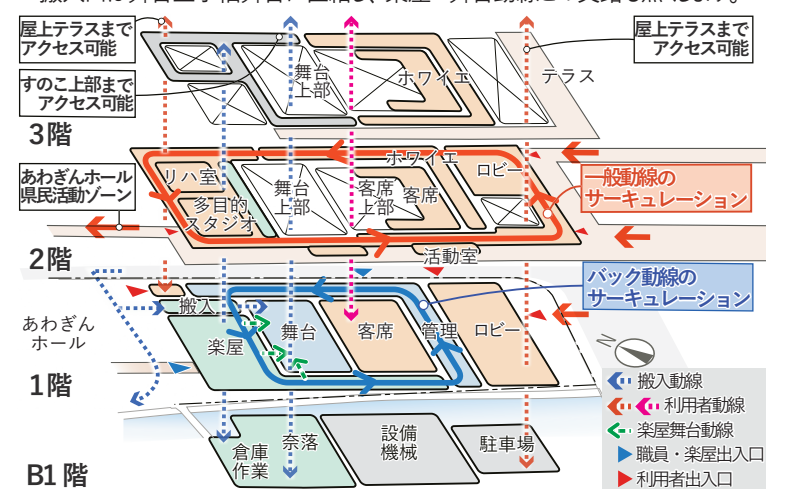
【図3】全方位に賑わいを発信する平面計画

一般利用施設の2階集約：一般動線のサーキュレーション

- 大ホール、多目的スタジオ、リハーサル室、活動室など全ての一般利用施設を2階コモンデッキ上に配置し、回遊動線で結びます。

楽屋/管理ゾーンの1階集約：バック動線のサーキュレーション

- 1階大ホールの周囲を楽屋／管理ゾーンで囲み、一般動線との交錯の無い回遊動線を確保し、管理し易くセキュリティの高いバックゾーンを構成します。
- 搬入口は舞台上手袖舞台に直結し、楽屋・舞台動線との交錯も無します。



【図4】一般動線とバック動線のサーキュレーション

01 稼働率を高め全館が賑わう施設構成

全ての利用者にやさしいワンフロアの機能配置

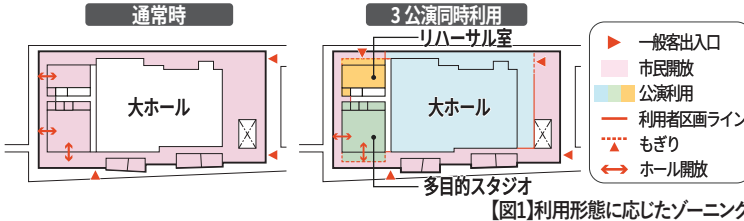
- 大ホールを中心に各機能が囲むシンプルで分かりやすい施設構成とします。
- 一般利用の大ホール客席、スタジオ、リハ室、活動室は全て2階に配置し、**駅前のペDESTリアンデッキからバリアフリー動線**でアクセス可能とします。

館内各所で重ね使いを徹底できる仕掛け

- 施設全館で稼働率を上げ賑わいを生むよう、重ね使いを積極的に図り、各室の仕様を多用途に使える設えとします。

単独利用から3公演同時利用まで様々な運用が可能なホール

- 公演時以外は大ホールホワイエを一般ゾーンとして開放することで、コンメンデッキ全周の回遊が可能です。
- 大ホール、多目的スタジオ、リハーサル室の各々で**独立したもぎりライン**を形成することができ、**3つの有料公演を同時に開催**することが可能です。



開場待ちからグッズ販売まで 広々としたまちあい広場

- もぎり手前に**約300㎡の平場スペース**を設け、開場前の待ち列からグッズ販売まで対応可能な広々とした滞留スペースを確保します。
- 公演の無いときはイベントスペースや談話スペースとして活用できます。

02 動線の交錯がなく使いやすい舞台周り

舞台・スタジオ・リハ室の集約配置によるバック動線の合理化

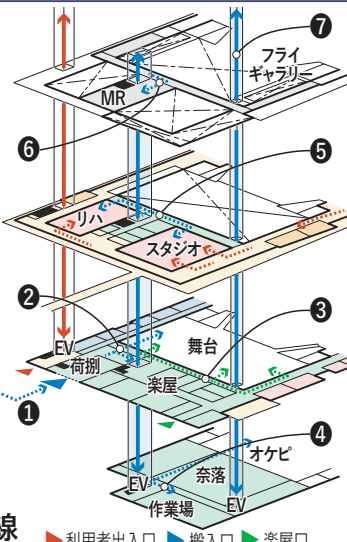
- 多目的スタジオ、リハーサル室は大ホール舞台に**近接配置**し、バックゾーン内の**階段とEV**で直結します。
- リハーサルや大人数の控室利用時にも大ホール舞台との行き来が容易です。

舞台裏の縦動線の強化

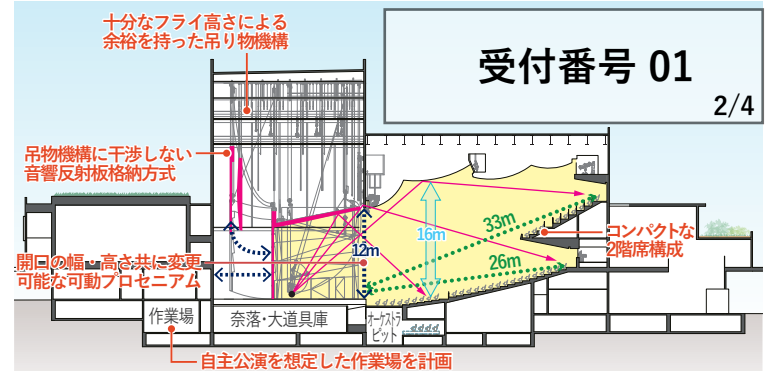
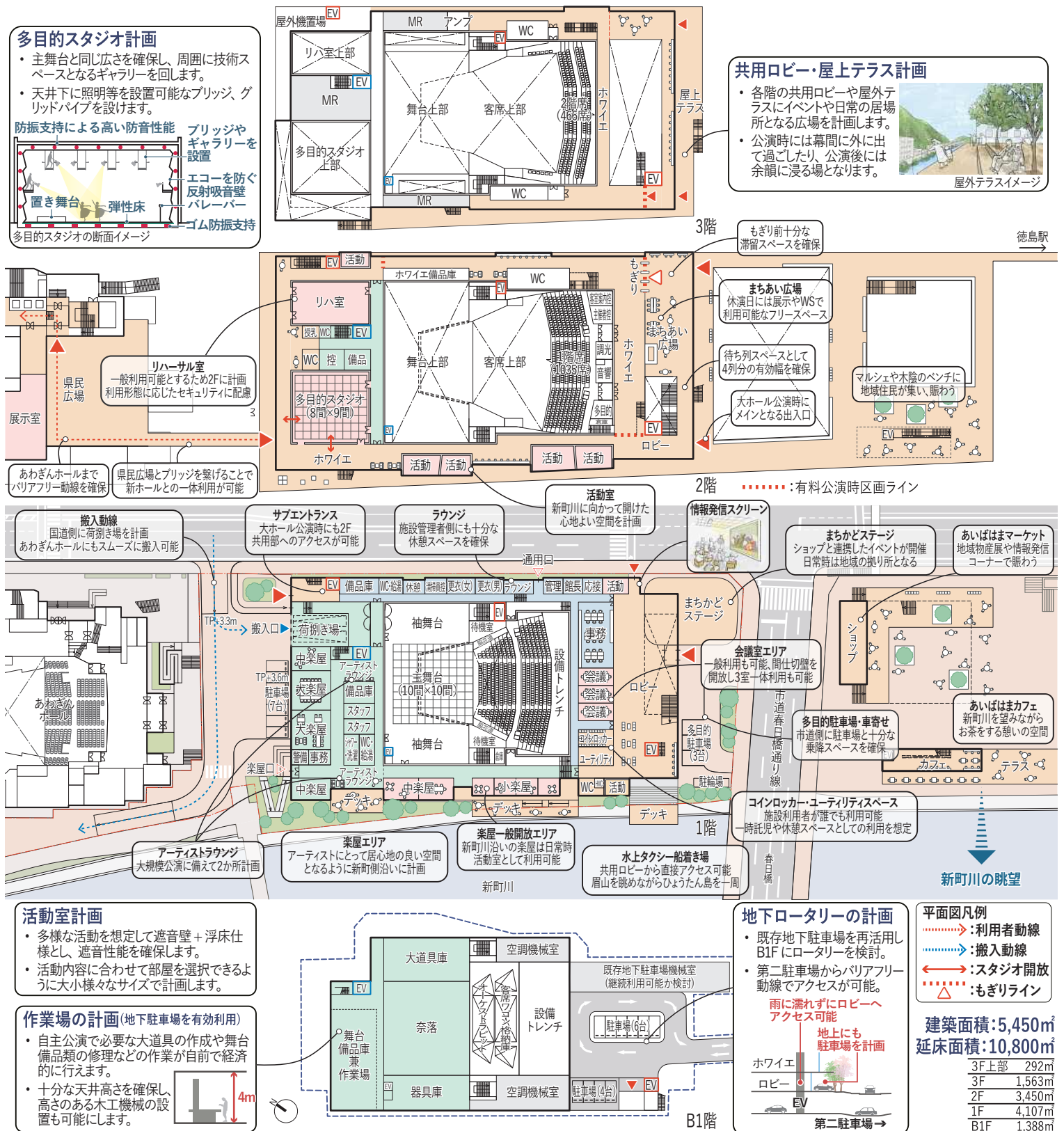
- 搬入口に直結した搬入EV**は地下大ホール奈落、2階スタジオ・リハ室バックゾーン、3階機械室に接続します。
- 下手舞台袖にEV**を設け、奈落、2階バックゾーン、フライギャラリー、上下段スノコまで着床し舞台裏動線を強化します。
- オーケストラピットからの**楽器搬出も舞台を経由せず搬入EV**で直接荷捌き室に搬入でき舞台上の作業に影響しません。

交錯の無い楽屋/管理/搬入動線

- 大ホール上手袖舞台に直結する搬入口を挟み、**楽屋ゾーンと管理ゾーンがL型に大ホールを囲む明確なゾーニング**により、動線の交錯をなくします。
- 対角2点で楽屋ゾーンと管理ゾーンがつながり、**バックゾーンの回遊性**にも配慮した利便性の高い構成です。



観客の感動、演者の高揚、舞台スタッフの創造性を誘発する建築計画



03 高度な多目的性を有するコンパクトホール

豊かな建築音響と舞台/客席の一体感を兼ね備えたホール形状

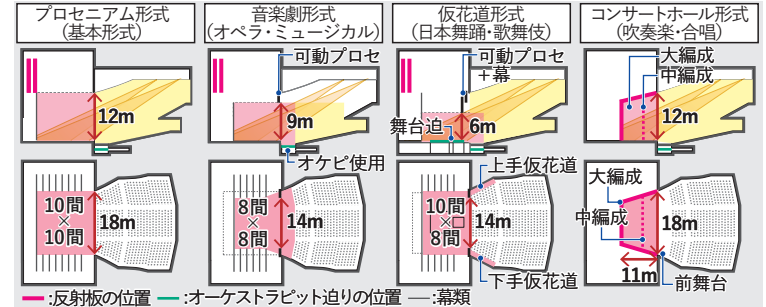
- クラシック音楽に適した豊かな**建築音響**と、**舞台と観客席の近さや音声の明瞭度**などを両立できる、**シューボックスと扇形を合体したホール形状**を提案します。

理想的なサイトラインとコスト削減を両立する2層形式の客席空間

- 客席1500席、プロセニウム間口10間のホールでは客席から舞台への**サイトライン**、**視距離**などの指標において2層客席が最適と考えます。

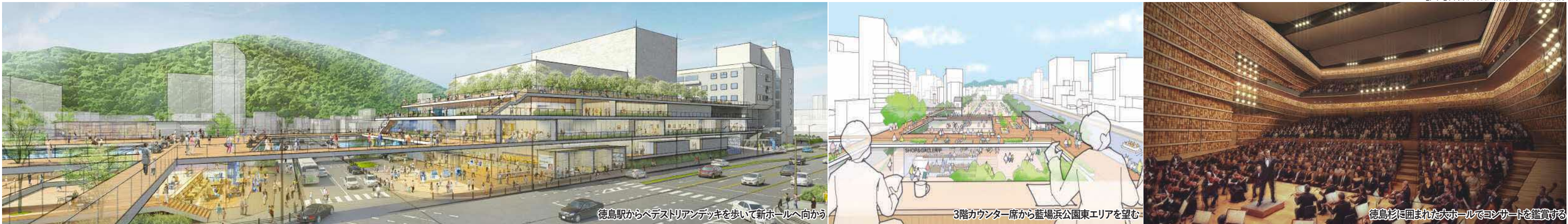
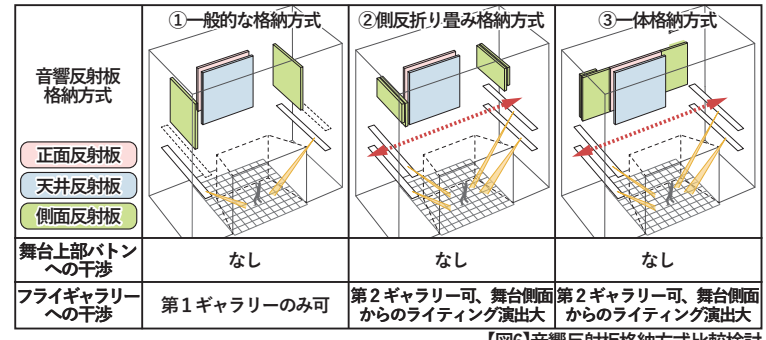
多様な演目に対応する舞台の基本仕様と可変性

- 将来的にも多様な演目に対応できる舞台の奥行やスノコ高さを確保し、奈落空間(舞台上3.5m)、オケ迫り・ワーグナーピットを設けます。
- 市民利用、移動公演の双方に対し、搬出入が容易で省略化が図れ、**スタッフの作業性**が良いホールを目指します。



音響反射板格納方式による舞台演出の高度化

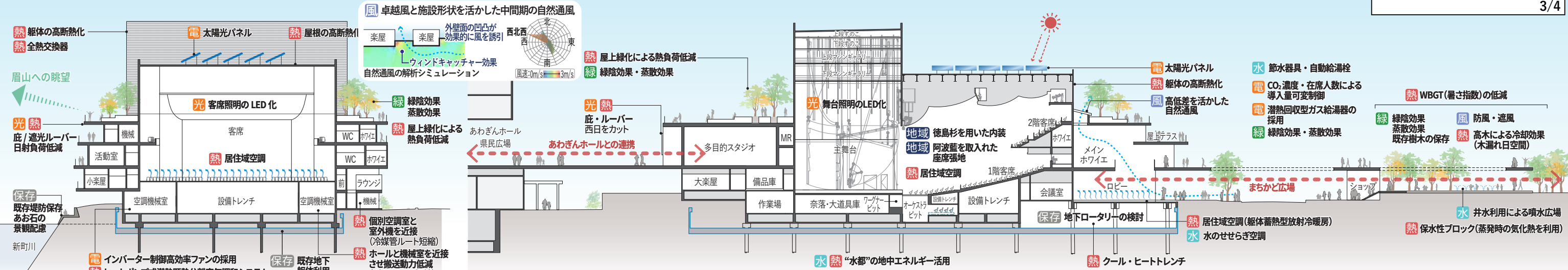
- 音響反射板の格納方式は**舞台演出への影響を最小化**する視点からの検討が重要です。舞台上部ボタンおよび側面フライギャラリーへの干渉の少ない方式で運用し易さ、移動時間、**コスト評価軸**に加え比較検討します。



「既存躯体活用・保存」「施設構成」「防災・環境計画」までがひとつつながりとなったコスト・工期短縮

受付番号 01

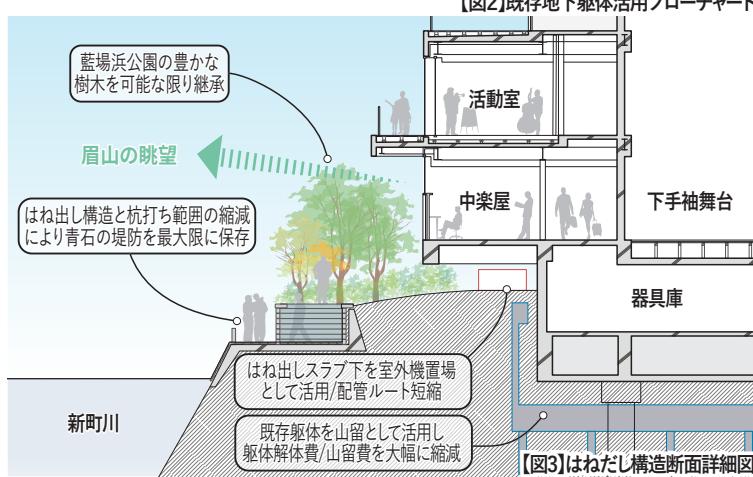
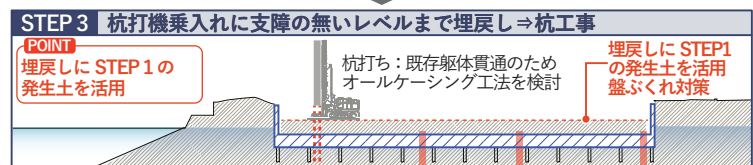
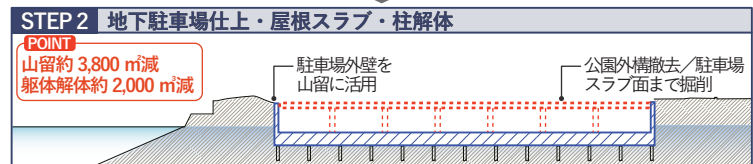
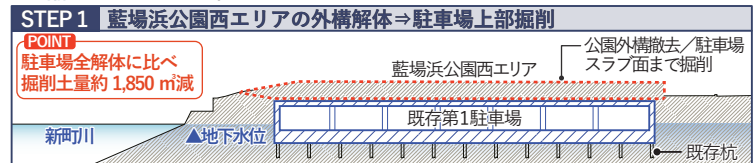
3/4



既存地下躯体再利用による土工事の最小化

既存躯体の最大活用/土工事・山留・解体工期を縮減

- ピットを含めた全ての地下階を既存駐車場躯体の内側に納めます。
- 建物外周ははね出し構造とし、既存地下躯体を山留/根伐底として最大限に活用することで、既存躯体の解体範囲や購入土量の削減、大部分の既存堤防保存、山留や根伐の省略を図り工期短縮とコスト削減につなげます。



100年続くホールを支える構造計画

3階建てのコンパクトホール

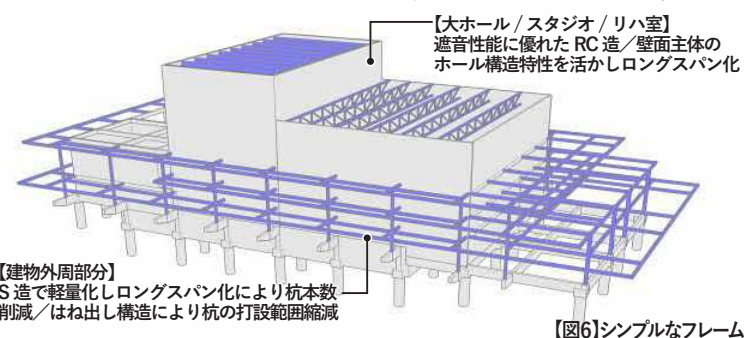
- リハーサル室、多目的スタジオをあわぎんホール側に配置することで、広々としたロビー/ホワイエ空間を確保しながら地上階数を3階建てに抑えられます。
- 3階建ての断面構成により、周辺への圧迫感を軽減しつつ、躯体量や外壁表面積を大幅に抑制します。

客席2層形式による躯体の縮減

- 客席を2層形式とすることで、客席ボリュームの高さを抑えつつ、床面積や躯体量、足場数量を抑制します。
- さらに2階客席下の空間をホワイエとして活用し省スペース化を図ります。
- 3層形式の客席形式に比べ、床面積約500平米、RC躯体量約200立米(壁面800平米)の縮減が見込めます。

遮音性と施工性に配慮した構造形式

- 構造形式は、地下躯体、大ホール、リハ室、多目的ホールをRC造、それ以外の外周部分や屋根架構をS造とするRC+S造形式をベースに検討します。
- ホールのRC造壁を耐震コアとして活用し、高い耐震性を確保します。



構造形式	① 全て RC 造	② RC+S 造	③ 全て S 造
断面イメージ			
工期	△最も長い	○①より0.5か月短縮	◎①より2.0か月短縮
コスト	遮音工事を含めるとほぼ同等	遮音工事を含めるとほぼ同等	遮音工事を含めるとほぼ同等
遮音性	◎確保しやすい	◎確保しやすい	○△特殊納まり多い
施工難易度	○一般的なホール同等	○一般的なホール同等	△非常に難しい

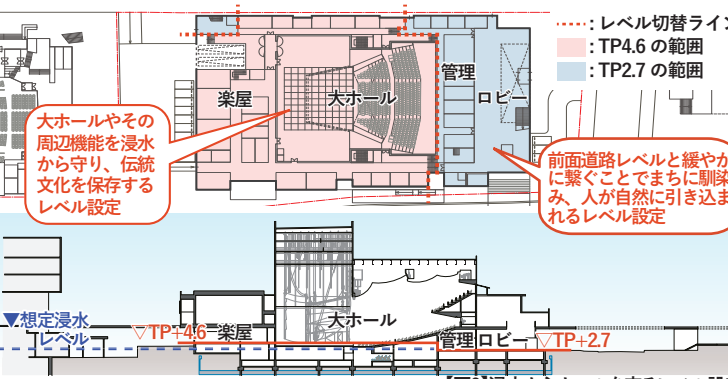
杭打ち範囲と本数の縮減

- 壁面主体となるホールの構造特性を活かし架構をロングスパン化します。
- プランの自由度を高めつつ、柱および杭の本数を最小限に抑えます。
- またS造の軽量な外周部をはね出し構造とし、杭の打設範囲を縮小します。

地域特性/施設特性を考慮した防災計画と環境配慮提案

街への賑わい発信と洪水リスク回避を両立するレベル設定

- 大ホール廻りの1階レベルは想定浸水高より上部(TP+4.6m)に設定し、洪水時のホール機能への浸水リスクを低減します。
- 1階エントランスロビーは前面道路レベル(TP+2.7m)と高さを合わせ、駅方面の街側から自然に人を引き込み、にぎわいを連続させます。



水都のポテンシャルを活かす

- 豊富な水資源や高い日照率、地質条件などを考慮し、地中熱利用や太陽光発電など、地勢的に高い効果が見込める省エネアイテムを積極的に取り入れます。

コモンデッキによる環境配慮

- 各層に庇状にはね出したコモンデッキは、日射負荷を抑制するとともに、外壁の防汚性を高めます。
- デッキ空間はメンテナンススペース、室外機の分散配置場所としても活用し、配管ルートの短縮と更新性向上を図ります。

エネルギーの地産地消

- 電力負荷平準化や停電時電源として蓄電池システムを導入し、徳島バッテリーバレイ構想推進に貢献します。
- 太陽光発電と蓄電システムを併用することでピークカットによる電力のランニングコスト低減を図ります。

せせらぎ空調システム

- 共用空間の床スラブに冷温水配管を敷設し、徳島の資源である平均約15°Cの地下水熱を利用した躯体蓄熱型放射空調システムを提案します。
- 躯体蓄熱型放射空調はコンクリートの蓄熱性を活かした搬送動力低減やピークシフトが見込め、床面を放射面とした快適な温熱環境を形成します。

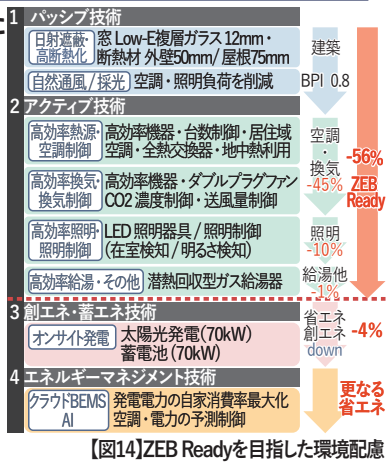
ライフサイクルコストの縮減

ホールの空間特性に配慮したランニングコスト縮減

- ホールと機械室を近接させ、大空間への空調換気搬送動力を抑制するなど、ホール特有の空間に対して有効な省エネ手法を提案し、効果的にランニングコストを抑えます。

ZEB Readyの達成

- パッシブ技術とアクティブ技術を掛け合わせ、基準建物と比較して1次消費エネルギーを約56%削減し、ZEB Readyを達成します。
- さらに創エネ蓄エネ技術やBEMS、AIによるエネルギーマネジメントなどにより、運用段階での更なる省エネを目指します。



コスト削減効果の試算

※金額は全て千円・税込

イニシャルコストの縮減 (建設)	
① プランの効率化による床面積の減	約1,200平米縮減(本提案)による全工事費削減効果 ▲1,200,000
② 客席ボリュームのコンパクト化	
1) 200立米分の地上躯体縮減 (壁面800平米分)	▲33,000
2) 外部足場の減	▲4,000
③ 既存地下躯体の活用	
3) 既存地下躯体5割活用による解体費の縮減	▲94,000
4) 山留工事範囲3,800平米分の縮減	▲182,000
5) 搬入土量1,850立米の減	▲14,000
6) 解体工事3ヶ月短縮による共通費の縮減	▲25,000
④ 杭本数の縮減	
7) 杭本数の縮減	▲57,000
⑤ その他の縮減項目	
8) 地上3階建て構成による外壁表面積の抑制/配管ルート短縮など	—
小計 (A)	目標金額達成 ▲1,609,000
ランニングコスト (60年) の縮減 (エネルギー)	
1次消費エネルギー56%減などによる水光熱費の低減効果	▲2,632,000
小計 (B)	▲2,632,000
ランニングコスト (60年) の縮減 (中長期保全)	
外壁 (客席部分) の維持費縮減	▲45,000
床面積縮減に伴う修繕/維持管理費縮減	▲1,180,000
小計 (C)	▲1,225,000
合計 (A+B+C)	▲5,466,000

ライフサイクルコスト縮減効果

- 現時点で定量化可能な項目でライフサイクルコストを試算します。
- 標準建物に対して、60年で約17.2%縮減効果が見込めます。

